

令和7年度 年報



カフトムシ里親まつり (R7.12撮影)

林野庁 近畿中国森林管理局
箕面森林ふれあい推進センター



はじめに

全国の森林面積の約3割を占める国有林を管轄している林野庁では、全国に9箇所の森林ふれあい推進センターを設置しています。森林ふれあい推進センターでは、それぞれの地域の特徴を活かし、国有林野を活用して NPO 団体等が行う自然再生活動及び生物の多様性の保全活動、学校及び NPO 団体等が行う森林環境教育等に対して、技術的な指導や情報の提供等の支援を行っています。

箕面森林ふれあい推進センターでは、都市部に隣接し、観光や野外活動などのレクリエーション利用が多いといった箕面国有林の特徴を活かして、地域の NPO 団体や教育機関と連携した森林環境教育（森林 ESD）、里山再生、森林の獣害対策など地域の課題解決に向けた多様な活動を行っています。これらの活動は、私たちと一緒に取り組んでいただいている皆様、活動に参加していただいた皆様のご支援があってこそ継続できているものであります。皆様のご理解とご協力で心から感謝申し上げますとともに、今後も引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年度は、関係皆様のご支援・ご協力により生態系を守る「ウシガエル捕獲大作戦」、自然素材を使用した「草木染め体験」などのイベントやシカ被害防止のための「箕面国有林シカ被害防止対策情報交換会」の開催などに取り組むことができました。

また、箕面の森での「森の探検隊」を現地で実施することは出来なかったものの、「出前授業」の依頼なども寄せられ森林環境教育に対する関心や必要性を感じているところです。

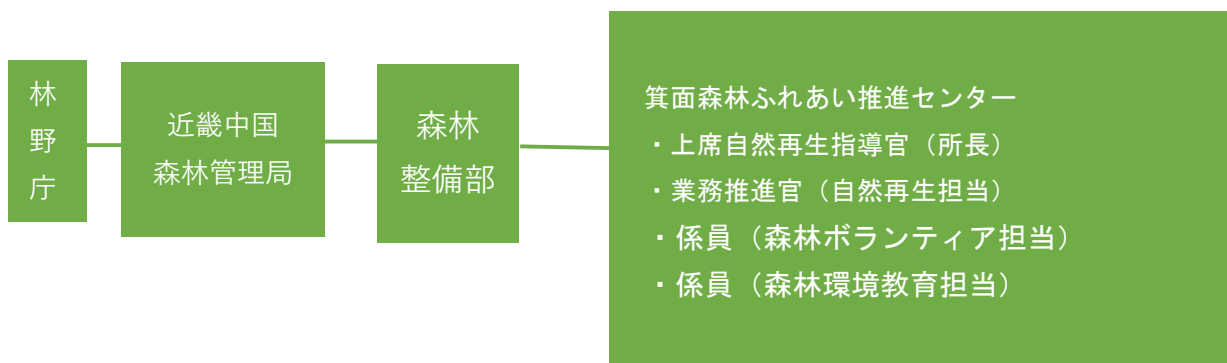
小学校などの「出前授業」の中では、子どもたちが話を真剣に聞き、多くの質問があったことや林業体験で木材と触れ合い森林に興味を持ったなどの感想を聞くことができ、森林環境教育の大切さを学んだところです。

これからも引き続き関係者の皆様のご協力を得ながら取り組んでまいりますので、当センターの活動に対し、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

令和8年3月

箕面森林ふれあい推進センター所長 藤原 正一

組織の概要



目次

はじめに
組織の概要

I 自然再生の取組

- | | |
|----------------------------|---|
| 1 「箕面体験学習の森」の取組について | 1 |
| (1) 目的 | |
| (2) 親しみやすい森林を目指した協働での森林整備 | |
| (3) 現況把握のための継続調査 | |
| (4) 生物多様性保全に向けた取組 | |
| (5) 「箕面体験学習の森」育成・活用事業検討委員会 | |
| ① 第1回検討委員会 | |
| ② 第2回検討委員会 | |
| 2 箕面国有林におけるニホンジカ被害対策 | 4 |
| (1) 目的 | |
| (2) 事業内容 | |
| ① シカ捕獲等事業 | |
| ② モニタリング調査 | |

II 森林環境教育の取組

- | | |
|-------------------------|----|
| 1 森林環境教育プログラム | 14 |
| (1) 森の探検隊 | |
| (2) モデルコースの拡充 | |
| ① 百人一首コース | |
| ② 教科書にのっている植物コース | |
| 2 森林環境教育用教材の活用・配布 | 18 |
| (1) 創作紙芝居・絵本を活用した森林環境教育 | |
| (2) 森林環境教育手引書（小学校編）の活用 | |
| 3 森林環境教育の実践 | 20 |
| (1) 国有林内での教育活動 | |
| ① 近畿大学農学部「国有林視察」 | |
| (2) 出前授業 | |
| ① YMCA 学院高等学校 | |
| ② 雲雀ヶ丘学園小学校 | |
-

目次

III 森林・林業・木材利用に関する広報・普及活動

1	森林とのふれあいを目指した取組	23
	(1) 森林ふれあい推進事業	
	① カブトムシ里親まつり	
	② 森のセラピー体験	
	(2) その他	
	① 草木染めのイベント	
2	冊子活用状況	26
3	情報発信	28
	(1) ホームページの整備	
	(2) こだま通信	
	(3) 近畿中国森林管理局広報誌「森のひろば」 No.1195 令和7年10月号、No.1199 令和8年2月号	
	(4) 機関紙・情報誌「森林レクリエーション」への寄稿	

IV その他

1	運営推進懇談会（箕面森林ふれあい推進センター）	34
	(1) 趣旨	
	(2) 検討事項	
	(3) 懇談会委員	
	(4) 令和7年度運営推進懇談会実施概要	
2	取組一覧・連携一覧	35
	(1) 森林環境教育関係	
	(2) シカ被害対策関係	
	(3) 地域等との協働	
3	令和7年度 箕面森林ふれあい推進センター職員名簿 (令和8年3月31日現在)	39

1 「箕面体験学習の森」の取組について

(1) 目的

箕面国有林（箕面市）を含む北摂地域は、かつて「池田炭（菊炭）」を生産するために「台場クヌギ」を育成するなど、昔から身近な山林として多くの方に利用されてきました。また、生物多様性の豊かな森林が広がっているため、「日本三大昆虫生息地（高尾山（東京都）・貴船山（京都府）・箕面山（大阪府）」として親しまれていました。しかし、戦後に拡大造林が行われ、現在ではスギ・ヒノキなどの人工林が大半を占める森林となっています。

そこで当センターでは、平成16年から各地における里山保全活動に活用していただけるよう、この箕面国有林をモデルとして「里山再生推進モデル事業」に取り組み、「里山再生ガイドライン」を作成いたしました。平成20年5月には「箕面体験学習の森」整備方針を策定し、「散策、体験、学習」が手軽に楽しむことのできる森林（箕面らしい里山）を目指して整備を進めてきました。平成28年度からは「箕面体験学習の森」育成・活用事業に名称を変更し、森林環境教育のフィールドとしての更なる工夫や、森林の魅力を伝えられるよう、様々な取組に着手しています。特に、「エキスポ'90みのお記念の森」展望台周辺では、落葉



【写真3 展望台周辺の現在の様子】



【写真1 池田炭（菊炭）】



【写真2 人工林伐採後の状況】

広葉樹林へ転換するプロジェクト「オオクワガタの棲（す）める森づくり」を地域の方々との協働で進めています。

私たちは、引き続き、この「箕面体験学習の森」をフィールドに地域と連携しつつ、身近な森林として様々な皆様に活用していただける森林を目指した取組を進めていくこととしています。

(2) 親しみやすい森林を目指した協働での森林整備

「ふれあいの森」協定相手方の日本森林ボランティア協会により、「オオクワガタの棲(す)める森づくり」箇所において、令和6年度に実施したゾーニング調査に基づく森林整備作業を実施しています。1月11日のボランティア活動には、植生学習会として、兵庫県立大学 服部 保 名誉教授から五感で楽しめる植物の特徴や目的樹種を育成するための除伐対象木の選木方法などの講義をいただきました。

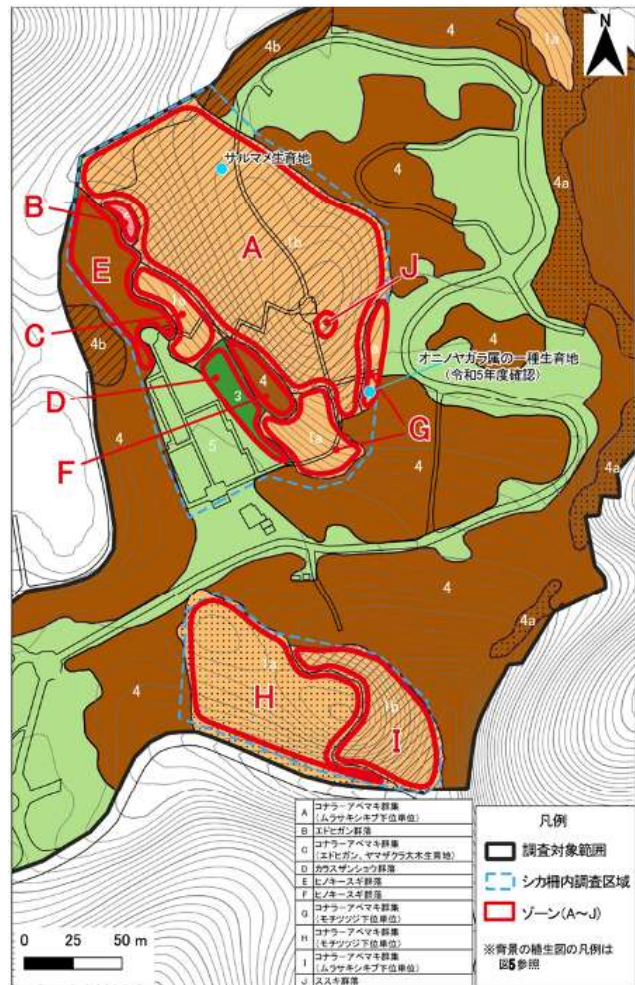


【写真4 クロモジの枝をかじって香りを楽しむ様子】

(3) 現況把握のための継続調査

～植生管理ゾーニング検討業務～

平成25年度から、「箕面体験学習の森」の現況とその変化を把握するために専門家による調査を実施しています。令和7年度は、株式会社「里と水辺研究所」と委託契約を締結し、ゾーニング調査により新たに設定されたススキ草原(ゾーンJ)の植生と、体験学習の森全体の昆虫相について調査を実施しました。調査の結果、まだ草原化して1年目のススキ草原では草原に見られる植物が多くありませんでしたが、今後は目的樹種等を育成するための森林整備を行いながらの経年変化を継続的に調査していきます。



【図1 ゾーニング図】

(4) 生物多様性保全に向けた取組

「箕面体験学習の森」にある「花の谷（ビオトープ）」はモリアオガエルやニホンヒキガエル等の希少な生物の存在が確認されており、この地域を代表する多様な生物を観察することができる場所です。一方で、その生物たちを脅かす特定外来生物のウシガエルも生息していることから、令和7年度はウシガエル117個体（成体30、オタマジャクシ87）を捕獲・駆除しました。9月30日には「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会」と連携して、地元のボランティア団体等（5団体、16名）の協力を得て「ウシガエル駆除大作戦」を実施、昨年度の成果もあってか、4個体（成体4）のみの捕獲・駆除となりました。

今回の捕獲数は少なかったものの、貴重な水生昆虫やカエル類の生息も確認することができ、またウシガエルの目撃頻度が減っていることなどから捕獲の効果を実感しました。

今後も引き続き、貴重な生物たちの生息環境を維持していくために継続的に取り組んでいきます。



【写真5 ニホンヒキガエル】



【写真6 ウシガエル駆除大作戦の様子】

(5) 「箕面体験学習の森」育成・活用事業検討委員会

① 第1回検討委員会

6月4日に箕面国有林において開催し、令和7年度実施計画について検討いただきました。各委員からは「森の探検隊」のコースや看板などについてご意見をいただきました。さらに台場クヌギの見学も行い、里山についての理解を深めることもできました。



【写真7 台場クヌギ見学の様子】

② 第2回検討委員会

2月9日に箕面市立市民会館において開催し、令和7年度の実施報告を行うとともに、令和8年度の実施計画（案）について検討をしていただきました。各委員からは、エキスポの森の来場者数を増やすための取り組みについてのアドバイスや、ホームページの改善するべき点についてご意見をいただきました。



【写真8 第2回検討委員会】

2 箕面国有林におけるニホンジカ被害対策

(1) 目的

箕面国有林を含む北摂地域では、ニホンジカ（以下「シカ」という。）の個体数が増加し、森林生態系への影響が顕著となったことから、平成 26 年度から地域ボランティア、大阪府、箕面市、京都大阪森林管理事務所、そして当センターで構成する「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会」において、シカの被害防止対策を進めており、当センターでは、①シカの個体数管理として捕獲事業、②シカの生息状況及び植生の被害状況等を把握するためのモニタリング調査を実施しています。

(2) 事業内容

① シカ捕獲等事業

ア 事業内容

シカの個体数管理を目的に、わな猟（くくりわな、箱わな、小型囲いわな）による捕獲を実施しました。（捕獲期間：令和 7 年 3 月 12 日～令和 7 年 12 月 15 日）

契約相手方：一般社団法人大阪府猟友会（捕獲従事者：大阪府猟友会箕面支部）

捕獲個体の焼却処分：箕面市 市民部 環境クリーンセンター（単価契約）

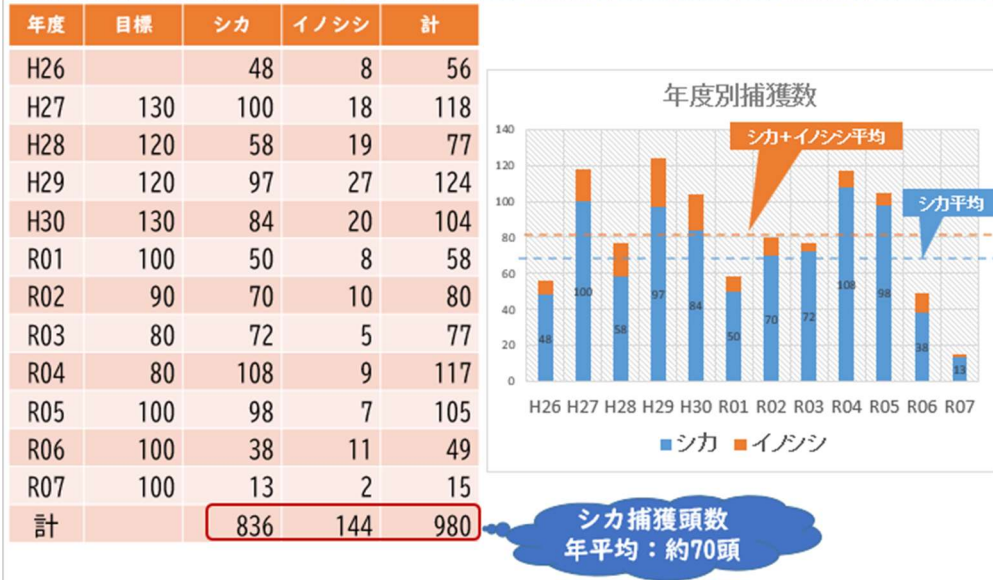
イ 実施場所

箕面国有林 267～270、272～277 林班（433.37ha）、捕獲実績：シカ 13 頭

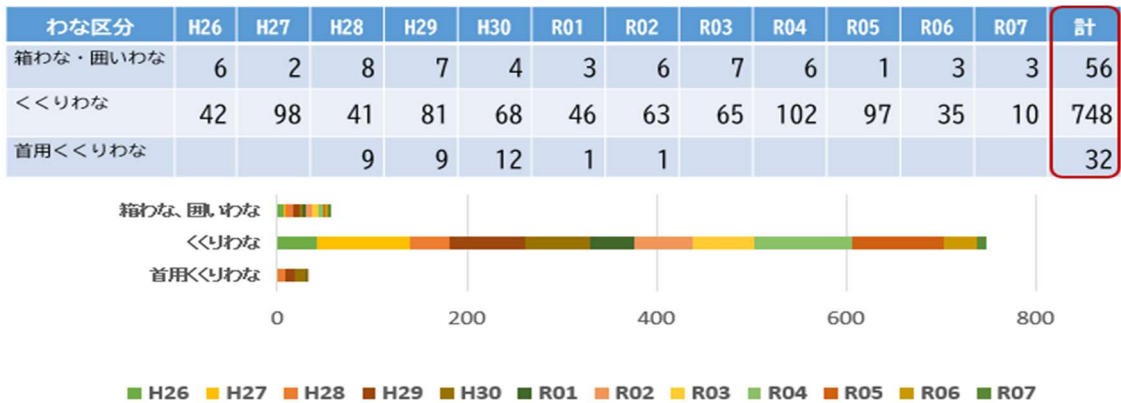


【図 2 箕面国有林ニホンジカ捕獲等事業対象区域】

Ⅰ 自然再生の取組



【表1 令和7年度までの捕獲実績】



【表2 令和7年度までのわな別シカ捕獲実績】

(捕獲頭数合計) (単位:頭)

有害鳥獣別 成獣幼獣別	オス鹿		メス鹿		鹿計	オス猪		メス猪		猪計	合計	捕即処分計
	成獣	幼獣	成獣	幼獣		成獣	幼獣	成獣	幼獣			
	5	0	7	1	13	2	0	0	0	2	15	8

(捕獲場所別捕獲頭数) (単位:頭)

捕獲場所	オス鹿		メス鹿		鹿計	オス猪		メス猪		猪計	合計
	成獣	幼獣	成獣	幼獣		成獣	幼獣	成獣	幼獣		
静尾寺園地周辺 (270林班)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
清水谷周辺 (268,269,272林班)	1	0	2	1	4	2	0	0	0	2	6
箕面ダム周辺 (267,273,274林班)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヨウラク台周辺 (276,276,277林班)	3	0	5	0	8	0	0	0	0	0	8
合計	5	0	7	1	13	2	0	0	0	2	15

(ワナ別捕獲頭数) (単位:頭)

ワナ種	オス鹿		メス鹿		鹿計	オス猪		メス猪		猪計	合計
	成獣	幼獣	成獣	幼獣		成獣	幼獣	成獣	幼獣		
くくりワナ	4	0	5	1	10	2	0	0	0	2	12
囲いわな	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	2
箱ワナ	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	5	0	7	1	13	2	0	0	0	2	15

【表3 令和7年度捕獲実績】

② モニタリング調査

ア 調査の目的

箕面国有林の植生への影響の低減を目的として、計画的なシカ管理の実施に向けた「シカ個体群管理指針」の作成を目指します。シカの生息状況等や植生被害状況を踏まえた捕獲目標頭数の設定等のため、シカの生息動向と捕獲数把握及び植生被害状況の把握の調査を行っています。

イ 調査対象地

箕面国有林全域

ウ 調査内容

(ア) 糞塊密度調査

箕面国有林の主要な尾根部を左右幅1m(計2m)の範囲で踏査し、10粒以上の糞塊の位置と個数をルート別に調査しました。

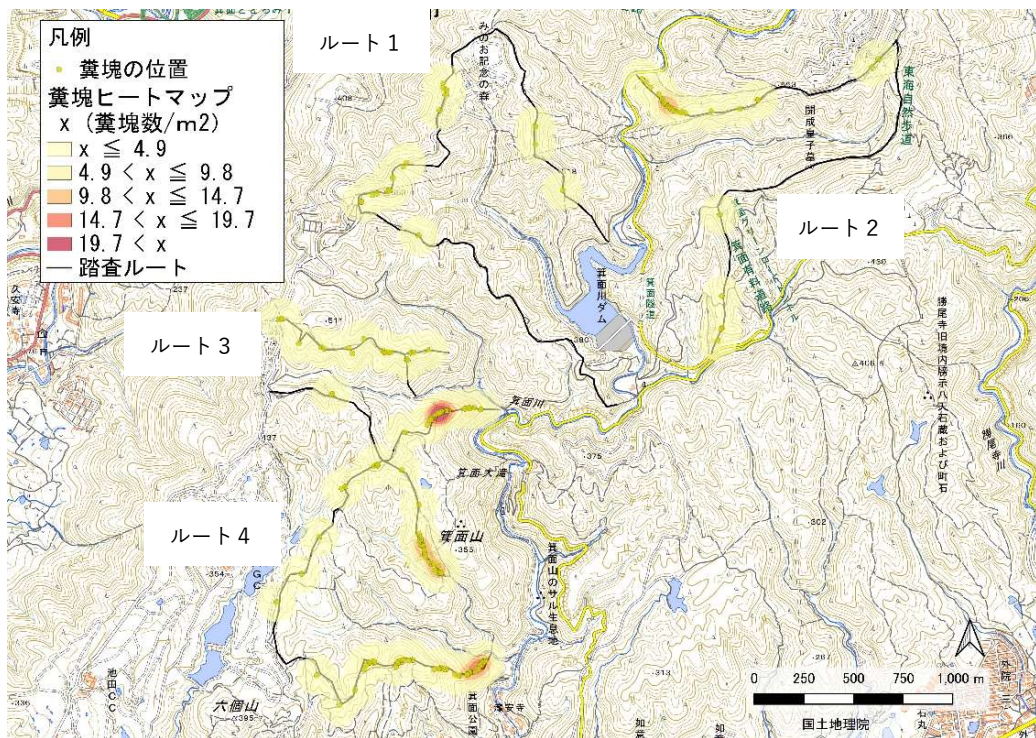
結果

ルート別の確認糞塊位置は図3のとおりです。令和6年度同様、一部の地域に糞塊が集中しており、急傾斜で糞塊密度が高い値となりました。

箕面国有林においては、シカの捕獲が進んでおり、アクセスがしやすい場所ではわなが設置されていることから、シカが捕獲地域を避け、捕獲が困難な急傾斜地に利用が集中していることが考えられます。

ルートNo.	10粒以上糞塊数	距離 (km)	糞塊密度 (個/km)
1	21	4.77	4.40
2	32	3.79	8.44
3	62	2.84	21.86
4	95	3.45	27.57
合計	210	14.85	14.14

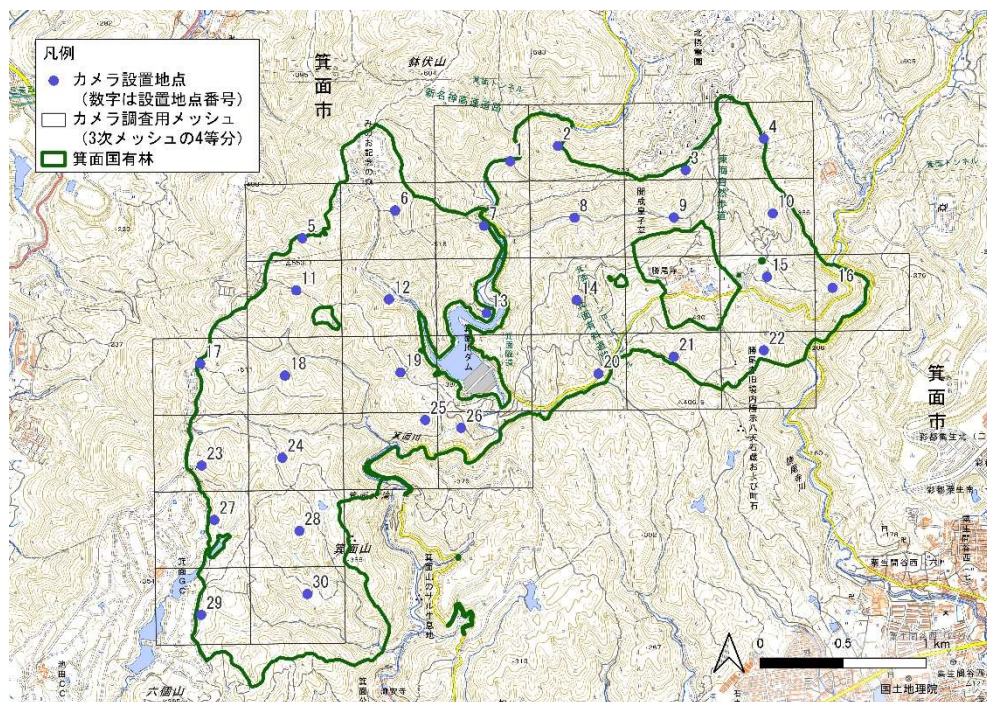
【表4 ルート別糞塊密度】



【図3 ルート上で確認された10粒以上の糞塊の位置】

(イ) センサーカメラによる調査

センサーカメラを30台設置(図4)し、地点ごとの撮影頻度を比較して、シカの生息密度の濃淡を把握するとともに、令和5～6年度に実施した同様の調査と比較しました。



【図4 センサーカメラ設置箇所位置図】

結果

センサーカメラによって撮影された全動物種の撮影状況は表5のとおりです。

令和6年度はシカが最も多く延べ1,893頭（カメラの平均稼働日数は90.9日）、次いでサルが1,058頭でしたが、令和7年度はサルが延べ1,453頭で最も多く（カメラの平均稼働日数69.8日）、次いでシカが801頭となりました。

その他中型獣類としては、タヌキ、テン、ハクビシン、アライグマなどで、ツキノワグマは確認されませんでした。

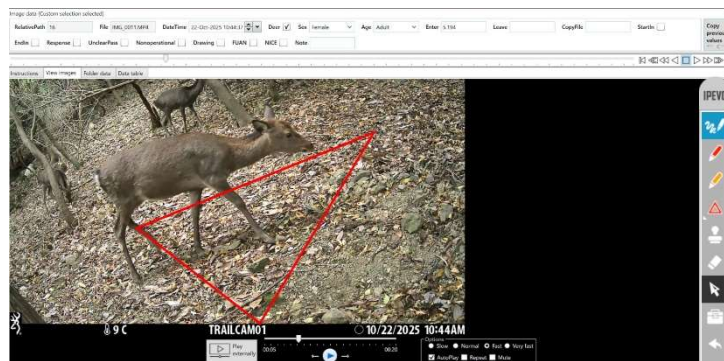
地点 番号	シカ	サル	イノシシ	クマ	その他 中型獣類	動物種 不明
1					3	
2	27		5		8	
3	50		9		18	1
4	68		8		8	
5	3	20	8		7	
6	13	94			1	
7	62	37	62		75	2
8	63		22		2	
9	78		19		8	
10	10				8	
11	8	858	16		13	
12	11	8			1	
13					6	
14			4		25	
15	27		29		13	
16	66		17		16	
17	7	154	1		7	1
18	13	90	9		7	
19	3	52	24		5	3
20	78		1		6	1
21	24		210		13	1
22	49		11		11	
23	55		42		39	
24	31	72	13		4	
25					2	1
26	7	19	18		12	
27	8		7		31	
28	6		11		1	1
29	17		118		22	
30	17	49	9			
総計	801	1453	673		372	11

【表5 各設置地点における動物種の延べ撮影頭数】

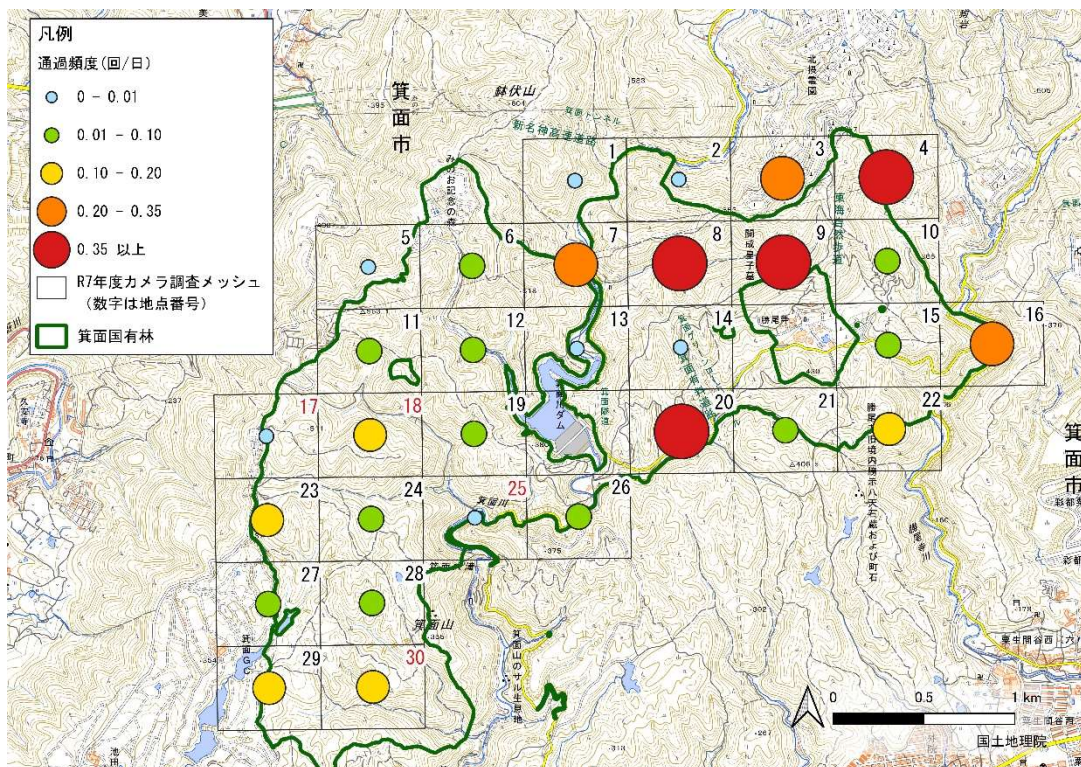
各センサーカメラの三角形の検出区画内の通過回数を記録し、1日当たりの撮影回数を通過頻度として表わしたのが図5です。

全体としての通過頻度は、令和5年度と令和6年度ともに約0.18頭/日でしたが、令和7年度は約0.15頭/日と低下しました。メッシュ間で通過頻度の差は大きく、箕面国有林北東部で通過頻度が高い傾向がありました。

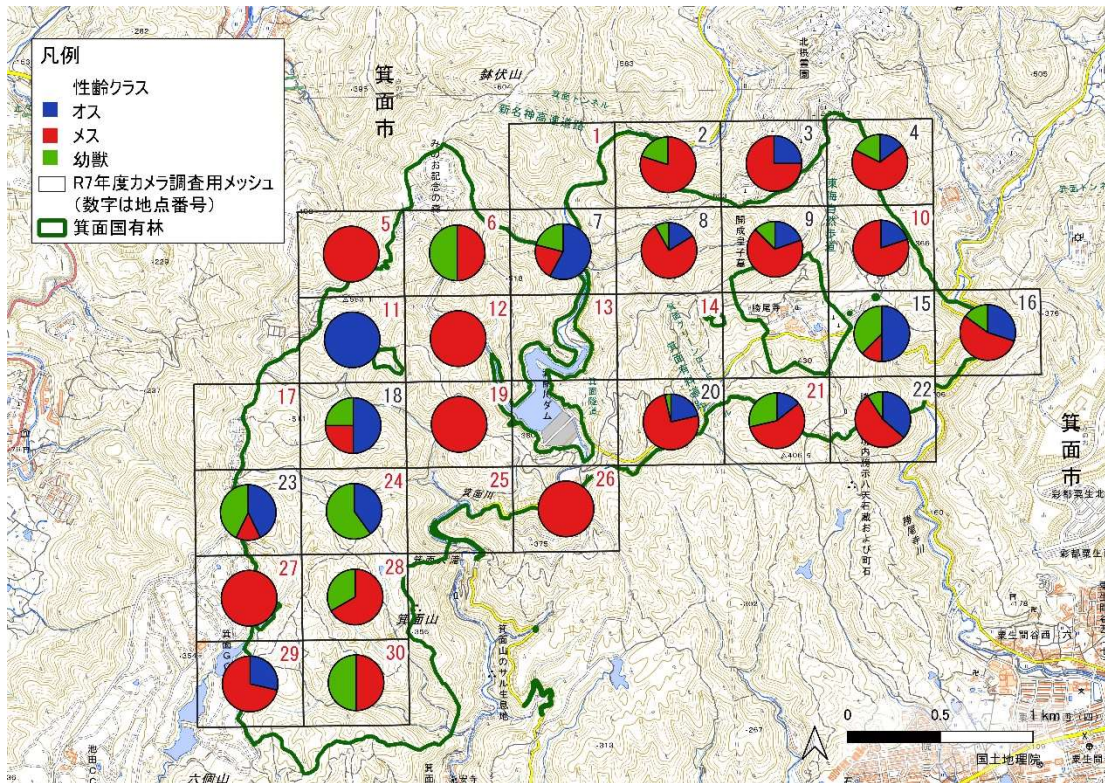
また、調査メッシュごとのオス、メス、幼獣の通過回数の割合を示したのが図6です。全体の撮影状況として、メスの割合が約60%とメスに偏っており、調査年度（R5～R7）による変化は見られませんでした。



【写真9 検出区画（三角形）にシカが侵入した状態】



【図5 調査メッシュごとの1日当たりの検出区画内の撮影回数（通過頻度）の区分図】
メッシュ番号赤字は稼働日数30日以下。



【図6 調査メッシュにおける性齢クラスの割合】
メッシュ番号赤字は延べ侵入個体数 10 頭未満。

(ウ) 捕獲情報の整理

捕獲個体数や捕獲効率は、個体群動態把握のための指標の1つになることから、令和4年度から捕獲効率調査を開始しています。

結果

捕獲数は令和元年度から令和4年度まで年々増加傾向でしたが、令和6年度から大きく減少し、令和7年度はさらに減少しました。

また、個体数増加抑制効果の大きい成獣メスの捕獲は、令和元年度から令和7年度までで、40.0～65.8%（幼獣を含めた場合は、54.3～75.0%）を占めています。

1日100台あたりの捕獲頭数を示した捕獲効率では、箱わな・囲いわなが0.68頭/100台日、くくりわなが0.26頭/100台日でした。令和2年度の大阪府全域におけるくくりわなの捕獲効率が平均0.26頭/100台日程度であることを踏まえると、今年度のくくりわなは同程度となりました。

$$\text{捕獲効率 (CPUE)} = \frac{\text{捕獲頭数}}{\text{わな稼働台日数}} \times 100$$

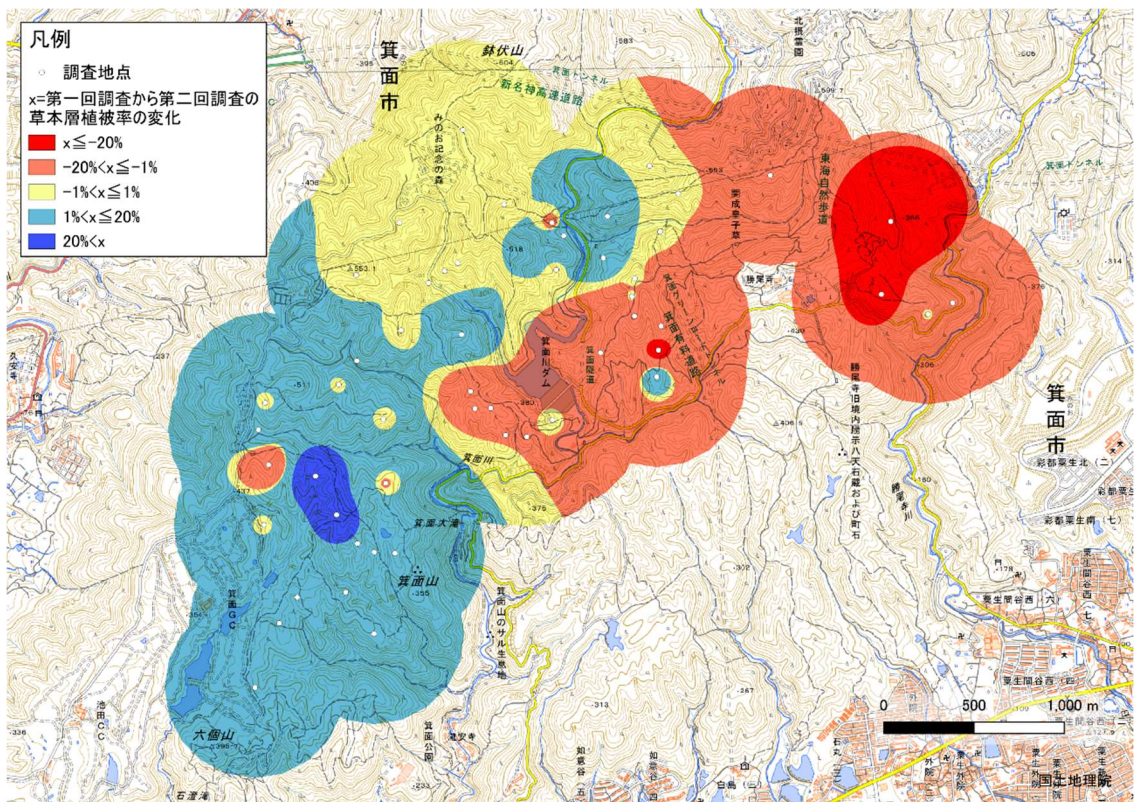
(エ) 森林植生衰退状況調査

箕面国有林の植生に対するシカの影響を把握することを目的に、令和6年度は東部地域、令和7年度は西部地域と2年をかけて箕面国有林全体の立地、植生、シカによる影響、食痕履歴を調査し、令和2年度と令和3年度に行った第一回調査と比較しました。

結果

第一回調査と第二回調査における草本層の植被率の変化について図7に示しています。第一回調査時と比較して、第二回調査時の草本層植被率が回復した場合を青で、ほとんど変化がなかった場合を黄色で、衰退した場合を赤で色分けしています。箕面川ダムの東側は衰退傾向がみられ、みのお記念の森周辺ではほとんど変化がなく、箕面川ダムの南西側では回復傾向がみられました。

また食痕履歴は、3年前から当年のうち毎年採食が確認された樹木の割合について、箕面川ダムの東側に多く、特に勝尾寺東側の道路に近い地点とみのお記念の森の南側の地点は毎年採食をうけている樹木の割合が高くなりました。



【図7 第一回調査から第二回調査の草本層植被率の変化】

(オ) 固定プロット森林影響調査

シカの植生への影響について定量的なモニタリング調査を行うため、森林植生衰退状況調査を実施した調査地のうち 26 カ所に固定プロットを設置し、種名や種別の被度等を調査しました。令和 6 年度から 2 年にかけて箕面国有林全体の調査を実施し、樹高により 5 つの階層別にまとめました。

結果

平均出現種数について、箕面市周辺の兵庫県猪名川町でシカの被害がない当時（1994～2004 年）実施された同調査では、落葉広葉樹林タイプの第二低木層で 17.9 ± 6.1 種、草本層で 36.8 種 ± 9.8 種であったことと比較すると、本調査の結果では第二低木層、草本層、いずれも少ない種数であり、箕面国有林の落葉広葉樹林において、多様性が低くなっている可能性が考えられます。

この場合、シカの生息密度が低下しても種数が回復しない可能性があるため、防護柵による物理的防除の推進も検討する必要があります。

植生タイプ	スギ・ヒノキ人工林		落葉広葉樹林	
調査区数	17		9	
林冠木平均DBH (cm)	27.6 ±	12.4	35.3 ±	10.8
林冠木平均密度(100m ²)	8.9 ±	3.3	3.0 ±	1.6
平均出現種数 (全体)	39.6 ±	14.7	27.1 ±	11.1
高木層	1.5 ±	0.7	1.9 ±	1.1
亜高木層	0.4 ±	0.5	3.7 ±	1.3
第一低木層	0.8 ±	1.0	3.7 ±	1.8
第二低木層	2.1 ±	2.0	2.4 ±	1.4
草本層	34.9 ±	14.5	15.4 ±	10.3

【表 6 植生タイプ別の平均出現種数等】

(カ) 箕面国有林におけるニホンジカ個体数管理指針作成に向けたデータの整理

個体群管理指針は、箕面国有林における林業被害および植生への影響を低減し、「健全な森林を維持すること」が最終目標となります。箕面国有林は全域が国有林の森林計画において「森林空間利用タイプ」に区分されており、「森林空間利用に求められる保健・文化・教育的活動に適した多様な森林」を長期目標の軸とし、関係団体等による多様な視点、「大阪府シカ第二種鳥獣管理計画」との整合性、これまで実施してきたモニタリング調査の内容を踏まえ、具体的に設定していくこととしています。

エ 情報交換会

当センターでは、箕面地域におけるシカの被害防止対策の効率的かつ効果的な取組を推進するため、令和8年2月19日に関係する行政機関・団体との意見交換会を開催しました。交換会には、一般社団法人大阪府猟友会、箕面自然休養林管理運営協議会のメンバー、株式会社野生動物保護管理事務所、京都大阪森林管理事務所から総勢26名が出席しました。

主な意見等

- ・最近は国有林内の様々な場所で土砂崩れが発生している状況にある。捕獲だけでなく、防護柵の設置も同時並行で進めていくべき。
- ・箕面国有林をどういった森にしていきたいのか、という長期目標の設定が重要であると認識している。かつて里山だった箕面の上部には草原が広がっていたこともあり、必ずしも成林した山が理想かどうか分からない。そういった過去の利用状況やシカとの共存なども考慮に入れながら、理想とする森のビジョンをしっかりと設定していくことが重要。
- ・猟友会での一番の問題は人材の確保である。急傾斜地での捕獲などでは若手の参入を期待したいが、現状の勤務体制ではなかなか難しい。経費がかかっている事情を踏まえて予算を上げてほしい。



【写真 10 情報交換会】

1 森林環境教育プログラム

(1) 森の探検隊

「森の探検隊」とは、森の中に25箇所程設置されているポイントを5～7名の班で巡回し、各ポイントで出題される指令（問題）を班の全員で考え、答えを導き出し、デジタルカメラで気になるものを撮影することにより、森の不思議について楽しく体験しながら学習できる小学生対象の森林環境プログラムです。

体験後は、学校で問題や撮影した写真を自分たちで資料等により調べ、班内でわかりやすく新聞のようにまとめることにより、さらに理解を深めることが出来ます。「森の探検隊」では、子どもたちが学びたいと思うポイントを自分たちで選び、問題に対する答えを導き出すことにより、自主的な学習を促し、問題に組み込まれた、国語・社会・算数・理科・道徳等の学習科目を総合的に学ぶことが出来るようになっていきます。

令和7年度は天候等の関係で実施することが出来ませんでした。コースの整備や、ラミネートの看板から新たにアルミ素材の



【写真11 「森の探検隊」の様子】



【写真12 百葉箱のポイント】



【写真13 看板の建て替えの様子】

看板に建て替えるなどの活動を行いました。

引き続き、教育関係機関と連携を図りながら実施に向けた取り組みを進めていきます。

(2) モデルコースの拡充

モデルコースの拡充については、「箕面体験学習の森」育成・活用事業検討委員会委員の助言・指導を頂きながらコースの検討や、現地で活用できる冊子の作成に取り組んでいます。



【図8 探検マップ】



【図9 チラシ】

今年度はチラシを作成し、箕面市教育委員会を通して箕面市の小中学校へ配布を行いました。

① 百人一首コース

小学校で習う百人一首に出てくる植物の中から、箕面国有林で見ることの出来る植物について簡単な説明が書かれた看板を見て歩く「百人一首コース」の完成を目指して取り組んでいます。今年度はHPの掲載と、チラシ、マップ、冊子の作成に取り組みました。



【図10 百人一首コース冊子】



【写真14 看板の設置】



【図 11 百人一首コースのチラシ】

② 教科書にのっている！植物コース

小中学校の教科書に掲載されている植物を実際に見てもらえる「教科書にのっている植物コース」の設定に取り組んでいます。

森林環境教育の専門家からいただいたアドバイスを参考に、看板に掲載されている植物を冊子にまとめた「教科書にのっている！植物図鑑」を作成し、HP に掲載しました。また、今年度新たにチラシの作成も行いました。



【図 12 植物図鑑冊子】



【写真 15 看板の設置】



【図13 教科書にのっている！植物コースのチラシ】



【図14 エクスポ'90みのお記念の森マップ】

2 森林環境教育用教材の活用・配布

(1) 創作紙芝居及び絵本を活用した森林環境教育

森林環境教育用教材として、創作紙芝居・絵本『雨水のぼうけん』『もくざいのヒミツ』をHPで公開するとともに、要望のあった団体等には絵本の送付も行っています。

また、手元に絵本が無くとも活用してもらうためにYoutubeに2作品の音声及びBGMをつけた動画も公開しています。

『雨水のぼうけん』については、より多くの方々に活用していただくように英語版も公開しています。

現在、2作品は地域のイベントで使用され、多くの親子連れに好評を得ています。



【図 15 雨水のぼうけん】



【図 16 英語版の雨水のぼうけん】



【写真 16 イベントでの紙芝居】



【写真 17 イベントでの紙芝居】

(2) 森林環境教育手引書（小学校編）の活用

森林環境教育を始めてみたい、森林環境教育をしたいがどのようなプログラムをすればいいのか分からないという小学校の教職員の方に向けて作成しているのが森林環境教育手引書（小学校編）です。教科・学年別に多くのプログラムが掲載され、資料用に DVD も付属しており、森林環境教育の実施に必要な資料が一冊にまとめられたものとなっております。

当書は、令和 2 年度の学習指導要領改訂に伴い、教育関係者による検討委員会により改定が行われ、現在は約 3,000 部が全国の教育大学、教育委員会等で活用されています。



【写真 18 手引書を利用した環境教育】



【写真 19 森林環境教育手引書】

また、令和 7 年度は日本森林インストラクター協会より依頼を受け、10 月 15 日に日本森林インストラクター協会の WEB 会議にて森林環境教育手引書をメインとした当センターの取組について紹介いたしました。紹介後、全国の森林インストラクターの方々より手引書の注文があり、日本森林インストラクター協会あてに計 25 冊の送付を行うこととなりました。

この冊子が皆様の活動の一助になることを願っております。



【写真 20 WEB での取組み紹介の様子】

3 森林環境教育の実践

(1) 国有林内での教育活動

① 近畿大学農学部「国有林視察」

6月26日に、近畿大学農学部の学生20名と教授2名が箕面国有林を視察しました。

箕面国有林で捕獲事業に従事している大阪府猟友会の方を講師に迎えて、ニホンジカの被害を防止するためのくくりわなの設置体験を行ったり、地上型3Dレーザスキャナ（OWL）での立木調査を体験したりしてもらいました。どちらも初めて体験する学生が多く、真剣に説明を聞いて、たくさんの質問が寄せられました。また、最後に近大OB職員3名との意見交換会も開催され、今までの勤務先や業務内容、志望理由など、こちらも学生から多岐にわたる質問が飛びかい、活発な意見交換を行うことができました。



【写真 21 シカくくりわなの実演】



【写真 22 地上型 3D レーザスキャナ（OWL）での立木調査の実演】



【写真 23 意見交換会の様子】

(2) 出前授業

① YMCA 学院高等学校

10月30日に、大阪市天王寺区にあるYMCA学院高等学校で森林の単元を学習している学生に、森林に関わる仕事の一つとして職業紹介を行いました。YMCA学院高等学校への職業紹介は毎年行っており、今年度の特別講習では、森林管理署や森林ふれあい推進センターがどのような業務を普段行っているのか、現場作業の1日の流れはどのようなものか、今まで経験してきた具体的な業務はどういったものなのか、を紹介しました。学生たちは森林についての知識を専門的に学んでおり、日本の林業を担う人材として、是非とも林業関係の職についていただきたいと感じました。



【写真 24 出前授業の様子】



【写真 25 萌芽更新について説明】

② 雲雀丘学園小学校

12月4日に、兵庫県宝塚市にある雲雀丘学園小学校の5年生に、森林環境教育の授業を行いました。雲雀丘学園小学校は、学校内にビオトープがありESD・環境教育活動に取り組まれています。今回は、「森林」「林業」をテーマに授業を行いました。

1時間目は5年生全員に向けて座学を行いました。小学生が理解しやすいように、クイズ形式にしたり、写真や絵を多用したスライドを用意したりして講義を行いました。小学生からの質問は手がひっきりなしに挙がり、とても盛り上がりました。

3時間目から6時間目は、クラスごとに分かれて丸太切り体験を行いました。ヘルメットを被りノコギリを持ち、丸太を一生懸命に集中して切る姿が印象的でした。丸太切りには国有林のヒノキ材を使用しましたが、「切ったあとのヒノキの香りがいいにおい。」「ずっと匂いをかいでいたい。」と生の木のいい香りにびっくりしていました。

小学生にとって、「森林」や「林業」はあまり馴染みのないものかもしれませんが、実際に木に触れ学ぶことで、少しでも身近に感じてくれていたら嬉しいです。

II 森林環境教育の取組



【写真 26 座学の様子】



【写真 27 丸太切りの様子】



【写真 28 綺麗に切れた丸太】



【写真 29 年輪を数える生徒たち】